

早稲田社会学会ニュース

第66号

2025年10月28日発行

早稲田社会学会事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

Tel: 03-5286-3742

E-mail: socio-office@list.waseda.jp

U R L : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 2025年度第77回早稲田社会学会大会の報告
2. 2025年度第77回早稲田社会学会総会の報告
3. 2025年度早稲田社会学会第46回研究例会の報告
4. 2025年度研究助成について
5. 入退会者のお知らせ
6. 学会費納入のお願い
7. 事務局よりお願い

1. 2025年度第77回早稲田社会学会大会の報告

第77回となる学会大会（早稲田社会学会と早稲田大学総合人文科学研究センターの主催）は、2025年7月5日（土）、対面とZoomのハイフレックスで開催いたしました。2019年度以来、ひさしぶりに対面での議論の場となりました。多くの方々に対面ならびにZoomで参加いただきました。ありがとうございました。報告者および報告題目、司会者、討論者は次のとおりです。

一般研究報告（11:30～12:00）

報告者：鈴木崇広（早稲田大学）

「炭鉱の臨時労働者「季節夫」の移動・定着の実態——生活史データからの接近」

司会：平野直子（早稲田大学）

シンポジウム（13:30～17:00）

テーマ：セクシュアリティの社会学 —サブカルチャーにおける性の商品化と性的消費

報告者：

服部恵典（東京大学）「生産・流通・消費のポルノ・スタディーズへ」

松浦優（東京大学）「問題=物質となる二次元——性愛：クィア・スタディーズの人間中心主義
を問い合わせる」

討論者：森山至貴（早稲田大学）

司会：大坪真利子（東洋大学）

シンポジウム報告

2025年度のシンポジウムは、昨年度からの共通テーマである「社会の危機と社会学の危機」の第二弾企画「セクシュアリティの社会学—サブカルチャーにおける性の商品化と性的消費」であった。

まず第一報告の服部恵典氏は、これまで「女性向け」アダルトビデオの研究を行ってきた知見を踏まえ、今回の報告でポルノ研究を消費・生産・流通という三つに区分しその動向を紹介した上で、とりわけ「流通」に焦点を当てた議論を展開した。「広く、送り手と受け手の間を繋ぐもの」として「流通」を定義した場合、それは送り手にも受け手にも影響を与えるにもかかわらず既存の社会学やメディア研究において見落とされてきた。「流通」に注目することで、「送り手から受け手にコンテンツが届くまでに、消費者は何を利用してどう選択しているのか?」という問い合わせが生まれる。すなわち、性的「多様性」に富んだ複数のコンテンツのもとでフーコー的な服従=主体化が生じるとしても、そもそもその「複数の選択肢」がどう用意され、消費者はどう選んで/選ばされているのか、という議論が可能になる。アクセシビリティとアソートメントという機能をもつこうした「流通」に着目することで、ポルノグラフィが社会学のみならず学際的な研究の対象として取り組まれるとして、ポルノ・スタディーという領域の確立とその発展可能性が論じられた。

第二報告の松浦優氏からはまず、二次元性愛が対人性愛の「模倣」や「現実の影」とみなされ存在を否定される現状や、人間の身体的実践や人間関係のみに注目してきた性的マイノリティ研究の傾向が説明された。対人性愛中心主義かつヒューマノジエンダリズムが温存されるセクシュアリティ研究・クィア研究のなかで、二次元性愛を理論的に考察にするため、K. バラッドの援用が提案された。続いて、二次元キャラクターにたいする欲望が、あくまで人間への欲望とは異なる欲望として成立する歴史的経緯に触れながら、そのような欲望の成立に、対人性愛を「正しい」セクシュアリティと見なす規範へのポストヒューマニズム的かつクィアな攪乱が見て取れることが論じられた。さらに、既存の表象分析の方法論的課題として、実体/表象という存在論的な序列が前提にされている点を指摘し、その解決として「人間の女性と二次元の女性キャラクターとを結びつける『意味的連関』がいかに成立するのか」に着目した研究実践が提案された。

以上の報告の後、ディスカッションがおこなわれた。まず討論者の森山至貴氏から両氏にたいして今回の報告内容とサブカルチャーという概念との関連性について、また服部氏にたいしては「流通」概念の拡張的使用について、松浦氏にはバラッドの理論的援用の必然性について質問がなされ、登壇者との間で議論が展開された。続いて、フロアから非常に多くの論点にわたって質問とコメントが寄せられ、登壇者から時間の許す限り、丁寧な応答がなされた。

「性的コンテンツの流通」と「二次元性愛」を主題化した今回のそれぞれの報告は、ともに性的欲望にかかわる人間の身体以外の物質的条件や存在物に着目する点で共通しており、その密度の高い議論は、まさにセクシュアリティの今日的な様相を浮かび上がらせ、それを対象としてきた社会学の枠組みや視点を再考させるものであった。またそこで提案されている研究はいずれも、今日の性表現をめぐる「炎上」や法的規制をめぐる議論などにも関わるという意味で社会的にも重要な意義を有していると思われる。今後の研究と議論の進展が期待される。

(東洋大学 大坪真利子)

2. 2025年度第77回早稲田社会学会総会の報告

2025年度早稲田社会学会総会は、7月5日(土)学会大会終了後、17:00から17:45まで、582教室及びZOOMのハイフレックスで開催されました。

1. 会長挨拶（会長代行として田辺俊介庶務担当理事）

2. 議長選出

熊本博之会員（明星大学）が選出された。

3. 議事

3-1 報告事項

1) 活動報告（2024年7月～2025年7月）（各担当理事）

2) 2025年度研究助成の申請について（庶務担当理事）

申請はなかったことが報告された。

3-2 審議事項

1) 2024年度決算の件（会計担当理事）

※別添の総会資料をご参照ください。

2) 会計監査報告の件（監事）

監事西野理子会員から会計監査を行い適正に処理されていると報告され、決算案は承認された。

3) 2025年度予算の件（会計担当理事）

資料に基づき予算案が提案され、承認された。

※別添の総会資料をご参照ください。

4) その他 特になし

3. 2025年度早稲田社会学会第46回研究例会の報告

第46回研究例会が、以下のとおり開催されました。

テーマ：現代におけるセクシュアリティ研究の多様性と諸論点

日時：2025年5月24日（土）14:00～17:00

会場：オンライン（Zoom）開催

司会者：大坪真利子（東洋大学）

報告者および題目：

志田哲之（東京女子大学）「セクシュアリティ研究の『これまで』から『これから』を考える
——社会学を対象としての試論——」

守如子（関西大学）「性表現と性的欲望」

研究例会報告

2025年度の研究例会では、社会学におけるセクシュアリティ研究の文脈や動向、そしてサブカルチャーにおける性的実践と消費にかんする分野の基本的な知見を確認することになった。第一報告の志田哲之氏からは、まず、M. フーコー、G. ルービンなどの古典理論の解説や、今日の性的マイノリティのアイデンティティ・カテゴリの細分化の現象などについて解説がなされ、今日のセクシュアリティ研究は、フーコーの視点を継承しながら「性にまつわる諸現象を批判的に検討・考察して

いく研究」として位置づけられた。また、日本における性的マイノリティ研究の系譜を振り返り、その今日的な状況と課題が論じられた。性的マイノリティの社会学研究の今後の発展のためには、事例研究の充実と同時にマクロな社会学理論や学説史等とのつながりについても、さらに野心的に探求していくことが提案された。また国内外の社会学研究の動向や政治経済技術の発展、セクシュアリティ以外のマイノリティ研究の動きにも注目する必要があると指摘された。

第二報告の守如子氏からは、まずフェミニズムやジェンダー研究における性表現をめぐる議論の系譜が概説されたのち、性の二重基準と二分法のもとで女性の欲望が不可視化される近代社会において、ポルノグラフィを読む女性主体の見落としが指摘された。その上で、女性向け作品に特有の、読み手が安心して内容を楽しめるようにするための、フィクション特有の構造が解説された。BLを楽しむ女性に関する先行研究にも触れ、フィクション上の嗜好と現実の欲望が一致しないなど、女性の性的欲望の複雑で多様なあり方が示された。さらにインターネット普及が女性のポルノ消費に与えた影響を検討し、性的指向概念にもとづく従来の視点の限界が論じられた。最後に、2010年代以降の二次元女性表象の炎上をめぐる主要な論点を整理し、公共の広告における必然性のない性的表現の問題が論じられた。

以上の報告の後、ディスカッションが行われた。まず守氏より志田報告の「性的マイノリティのアイデンティティの細分化について、グローバル化を背景とする説明は当事者の名乗りの切実さを単純化するのではないかという懸念が呈された。志田氏は、情報化を含むグローバル化によって多様なカテゴリが流通し、当事者が従来の名乗りを引き受けずとも新たな選択が可能になっている現状を踏まえ、既存カテゴリにたいし当事者が問題を経験しそれを新たなカテゴリの使用によって回避しているのであれば、こうした問題自体の考察が重要になるであろうと応じた。さらにフロアからも活発に質問やコメントが寄せられ、性的指向概念では捉えきれない多様な性的実践や欲望の実態について紹介がなされたり、広告や二次元表象における「累積的抑圧経験」を理由とする性表現の排除の是非が論点として示されるなどした。

今回の研究例会では、お二人の登壇者による熱のこもった充実した報告を通じて、ジェンダー・セクシュアリティ研究に馴染みのない参加者にとって理解を深める機会となっただけでなく、同分野に関心をもつ参加者にとっても、女性と性的マイノリティのセクシュアリティが社会学でどのように扱われてきたのかを整理し、インターネットの普及やグローバル化などのマクロな社会変化のものでの影響や、既存の概念枠組みの限界などをクリティカルに考察する貴重な機会となった。加えて、SNS上の性表現をめぐる炎上事例の解説と討論は、近年の性表現規制をめぐる問題に関わるものであり、今後も検討を深めていく重要性が確認された。

(東洋大学 大坪真利子)

4. 2025年度研究助成について

2025年度の研究助成の募集に対して申請はありませんでした。なお、趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局までお問い合わせください。

5. 入退会者のお知らせ

理事会において以下の2名の入会が承認されました。（以下、敬称略）

2025年5月26日理事会

鈴木 崇広（早稲田大学大学院文学研究科）

丹羽 友之（一般社団法人 未来への道標）

理事会において以下の1名の退会が承認されました。（以下、敬称略）

2025年7月2日理事会

臼井 恒夫（無所属）

6. 学会費納入のお願い

今年度の学会費を未納の方におかれましては、重ねて学会費をお振り込みくださいますようお願い申し上げます。

年会費：一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、別途メールにてその旨をお知らせください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

7. 事務局よりお願い

■事務局への連絡はできるだけメールでお願いいたします。

コロナ禍以後、事務局運営上の実務の多くをオンラインで行っております。学会事務局へのご連絡等は、できるだけ郵便でなくメールにてお願いいたします。郵便の場合、対応が大変遅れる可能性があります。いろいろとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■学会費の納入にご理解とご協力を願いいたします。

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。特に2020年度以後、コロナ禍で、学会費の納入状況が大変低下しました。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上